

<b>B-3</b>					
主題	特別養護老人ホーム 入所3か月で在宅復帰を果たした事例				
副題	計画的にADL改善目指す取り組み				
キーワード 1	在宅復帰	キーワード 2	自立支援介護	研究(実践)期間	3ヶ月
法人名・事業所名	社福) 東京武尊会 東京令和館 中野				
発表者(職種)	佐藤奈津代(介護職員)				
共同研究(実践)者	なし				
電 話	03-3386-8038	F A X	03-3386-8037		
事業所紹介	2020年4月に中野区に開設。私たちは、専門的な理論に基づく自立支援介護を実践することにより、地域の高齢者が失われた自立性を取り戻し、いつまでも住み慣れた場所で安心して暮らしていただけるよう支援します。お元気な方はより元気に、重度の方も自立性が回復できるように、一貫したケアを提供します。				
<p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>我が国の介護保険制度において、高齢者が住み慣れた地域でその人らしく暮らす「地域包括ケアシステム」の強化が推進されている。厚生労働省においても、特別養護老人ホームの位置づけとして、「入所者が可能な限り在宅復帰できることを念頭に、常に介護が必要な方の入所を受け入れ、入浴や食事などの日常生活上の支援や、機能訓練、療養上の世話などを提供します」とされ、入所施設における在宅復帰の必要性が求められている。しかし、特養に入所されるとADLが回復してもご家族の都合により、中々在宅に戻ることでできない課題がある。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>2020年4月1日、自立支援介護を提供する特別養護老人ホームとして開設。開設以降、①水分1日1500cc ②入居即日オムツ外し、オムツゼロ ③全員歩行 ④全員経口摂取 ⑤認知症症状ゼロの五訓を達成すべく、日々の介護を実践している。今回、施設入所した利用者がADL改善することで在宅復帰可能となることを期待して自立支援介護に取り組んだ。</p> <p>《3. 具体的な取り組みの内容》</p> <p>男性 96歳 要介護3</p> <p>既往歴：アルツハイマー型認知症、前立腺肥大</p> <p>88歳頃より認知症状が出現。娘様が両親の介護をしていたが、病気を患い1人での介護に限界を感じ2020年9月2日に特養に至る。入所前にアセスメント、課題選出、介護計画を作成し介護計画に沿って取り組みを開始する。</p> <p>① 1日1500cc以上の水分摂取 ② 常食・常菜を目指しての食事形態の調整 ③ 下剤の中止</p>					

④ 日常的な歩行訓練

⑤ パワーリハビリの実施 を提供してきた。

《4. 取り組みの結果》

入所前の状況は、水分 400 cc 程度、食事は粥・刻み食(約 900kcal)、排泄リハビリパンツ使用、失禁みられ下剤服用、歩行は伝い歩き 30m ほど可能であった。退所時には、水 1603 cc、食事は米飯・常菜へ変更となり(1500 kcal)、排泄は布パンツ使用、失禁なし下剤は中止、歩行は杖歩行 100m 可能となる。

11 月中旬より、ご本人の状態改善と同居の奥様の体調回復により、ご家族より「また一緒に生活したい」と在宅復帰への希望が聞かれる。同月末に在宅復帰へ向け、当施設ケアマネジャーにより居宅訪問。自宅環境に合わせた日常動作訓練を提供。12 月 10 日、在宅復帰に至る。退所後は、通所リハビリ週 3 回、訪問介護(入浴目的)週 2 回、福祉用具貸与(手すり)、当施設ショートステイ月 7 日程度を利用。娘様より「通所では一切車椅子を使用せず、送迎車も杖で乗って、向こうでも杖歩行です。家では伝い歩きですが、状態も良く、毎日排便もあって元気です。怒りっぽいこともあるけど、薬をなくしたからではなく、昔からの性格だと思います。薬は一旦やめて様子を見ることにしました。」との声が聞かれている。

《5. 考察、まとめ》

先行研究によると、介護者は先が見えない不安から施設入所の申し込みをするとの報告があり、また別の研究では“歩行能力・排泄機能の低下”から常に目が離せない状況になり、家族の介護負担感が増すと述べられている。

今回の事例では自立支援介護の提供により入所 3 ヶ月で歩行能力・排泄機能を含めた ADL 向上を実現し、同居家族の体調の回復により在宅生活をイメージ出来る状況になったことが、実際の在宅復帰に繋がった。また、入所後 3 ヶ月での ADL 改善したことは在宅復帰を受け入れやすかったと考える。入所中の状態変化を目の当たりにしたことにより、在宅復帰以降も家族介護者が水分摂取の促しや、服薬の整理に前向きに取り組むきっかけになったと考察する。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

1) 厚生労働省「介護事業所・生活関連情報検索 介護サービス情報公表システム」

<https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/publish/group14.html>

2) 「新版介護基礎学」(2017)、竹内孝仁、医歯薬出版

3) 「特別養護老人ホームにおける待機者の実態に関する調査研究事業 ～待機者のニーズと入所決定のあり方等に関する研究～」(2012)

《8. 提案と発信》

アセスメント・課題選出・介護計画を立て取り組むことで、効率よく利用者の ADL 向上に繋がる。また目標を数値化することで必要な水分量など明確になり、在宅復帰後もご家族が継続的に取り組みやすくなる。